



チュニジア：シブシー大統領就任、シード首相任命、議長・副議長の選出

チュニジアでは、年末年始にかけて、新体制が起動し始めた。2014年12月31日、人民議会で大統領就任宣誓式が行われ、バージー・カーイド・シブシーが正式に大統領に就任した。12月29日に独立最高選挙機構（選管）が大統領選挙決選投票の最終結果を発表し、シブシーの勝利を確定していた。シブシー大統領は就任演説において、自分は全チュニジア人のための大統領になること、また今後の政治過程を全政治勢力及び市民社会勢力との合意によって進めていくことを強調した。2014年1月に成立した憲法には、2014年末までに大統領選挙を実施し、移行過程を完了すると書かれており、チュニジアは憲法の規定通りに移行過程を終了したこととなる。

さらに1月5日、シブシー大統領は、ベン・アリー政権時代に農業省や内務省で高官を務め、2011年の暫定政権時代に内相も務めたハビーブ・シード（サイド）を首相に任命し、組閣を命じた。憲法の規定では、組閣作業は1カ月以内とされている。

その他、12月中に、人民議会の議長と副議長が以下のとおり議員投票により選出された。

- ・議長 ムハンマド・ナーシル（チュニジアの呼びかけ党）
- ・第一副議長 アブドゥルファッターフ・ムールー（ナフダ党）
- ・第二副議長 ファウジーヤ・ベン・ファッダ（自由愛国連合）

評価

憲法条文通り、チュニジアは全ての移行過程を2014年末までに完了した。大統領選挙で敗北したマルズーキー陣営側が選挙結果を受け入れ、同陣営を事実上支援したナフダ党も同様に選挙結果を受け入れたことが、移行過程最終段階のスムーズな完了に貢献した。

ハビーブ・シードの首相任命は、諸政党・市民社会勢力（労組など）との協議で合意された結果であった。2013年の政治危機の頃、暫定首相の指名をめぐる諸勢力がなかなか合意に達しなかったことと比べると、今回は短期間のうちに合意に達した。これを、政治勢力間の対立の程度が緩和してきた表れと見ることもできるだろう。組閣交渉もこれまでの国民対話を仲介した市民社会勢力を含めて行われる予定であり、イスラーム主義のナフダ党が入閣するか否かが注目される。

（金谷研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.mei.j.or.jp/>